

障害者の生活 先端機器で支援

熊本高専 合志市に体験施設



機器の操作を教わりながらゲームを楽しむ参加者（右）＝9日、合志市

熊本高専は、障害者の生活や教育を支援する機器が体験できる施設「ATラボ」を合志市の熊本キャンパスに開設した。先端技術を使って開発した機器の使い勝手を確認してもらい、技術者の育成も目指す。

機器は主に児童生徒の利用を想定。家庭用ゲーム機や独自技術で改良したおもちゃなど、体の一部や視線だけで動かせる5種類を並べた。9日、熊本と福岡の障害者と保護者約10人を招いて体験会を開いた。参加者たちは担当者に操作を教わりながら、興味深そうにゲームを楽しんだ。

来年2～3月ごろ本格稼働させ、特別支援学校や障害者団体を対象に年数回、体験会を開く計画。人間情報システム工学科の清田公保教授は「多くの障害者が使える技術はまだ少ない。個々の障害に応じた機器を開発できる技術者を育てたい」と話した。

熊本高専は、2020年度から全国の高専6校と医療・福祉分野の技術者を育成する事業に取り組み、中核拠点校となっている。（小林義人）